

三内丸山遺跡整備工事（北盛土覆屋解体・新設工事）特記仕様書

第1章 総 則

第1節 適 用

1. 本業務は、図面及び下記に示す図書のほかこの特記仕様書（以下「特仕」という）によるものとする。
 - ①文化財保護法
 - ②公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年度版（国土交通省）
 - ③その他関係する法令及び規程
2. 記載内容については、「特仕」がその他に優先するものとする。
3. 「特仕」に記載のない事項、及び記載内容に疑義が生じた場合には、監督員と協議するものとする。なお、本仕様書でいう「監督員」とは三内丸山遺跡センターおよびその指定する代理者とする。

第2節 表示板の設置

1. 請負者は、工事の施工にあたって、工事現場において公衆が見えやすい場所に、工事内容、工事種別、工事期間、発注者、工事請負者等を記載した表示板を設置しなければならない。

第3節 工事進捗状況の報告

1. 請負者は実施工程表に基づき施工を行い、工事進捗状況を監督員に報告をすること。
2. 請負者は施工上の疑義が生じた場合には速やかに監督員に報告し、必要な指示を受け対応策を講じること。
3. 必要に応じて図面・写真等により、施工の仕上がりについても事前に監督員へ報告・確認を行い承諾を得た上で施工を行うこと。
4. 工事定例会等を実施し、関係者へ施工状況の報告・協議を行うこと。

第4節 設計変更

1. 本工事は国史跡の整備工事である性格上、工事の休止・中止等を含む設計変更が想定されるが、この場合には、請負者はこれらの変更内容に関して監督員と協議しなければならない。
2. 設計変更を行う場合は、青森県の規定によるものとする。
3. 現場における軽微な数量の増減による変更については、監督員の指示によるものとする。

第5節 検査及び現場立会

1. 検査及び立会項目については請負者が行い、その結果を監督員に報告すること。ただし、下記項目及び監督員が指示する事項は必ず監督員の検査又は立会を受けること。掘削立会者については文化財専門職員とすること。

〈立会検査〉

- ・各種材料検査
- ・各工種の段階確認
- ・史跡指定地内における掘削行為時

〈完成検査〉

- ・工事竣工時の出来形等検査

第6節 材料承諾

1. 本工事で使用する材料並びに製品については、工事材料使用届け及び承諾願いを提出のうえ、監督員の承諾後使用すること。

第7節 交通安全管理

1. 標識類、防護柵等の安全施設等については、現場条件に応じて設置するほか、道路管理者及び所轄警察署と打合せを行い必要な措置を実施すること。
2. 安全対策について道路管理者及び所轄警察署との打ち合わせ結果により変更等が生じた場合はその結果の内容に基づき、設計図書の変更を監督員に申し出て、承認を得るものとする。

第8節 その他

1. 本工事に必要な諸官公署その他への手続きは、請負者の責任において速やかに行うこと。
2. 現場管理は労働基準法・労働安全衛生規則、その他関係法規に従い遺漏なく行うこと。また、工事現場の労働者等の出入りの監督及び風紀(服装・態度等)・衛生の取締り、ならびに火災、盗難その他の事故防止について十分に注意を払うこと。特に、史跡地内である本工事区域内では、火気の使用を禁止する。
3. 工事施工にあたり、敷地内及び近隣の諸施設に損傷を与えないよう十分な配慮を払うとともに、工事に対する公害及び苦情等については、請負者の責任において解決にあたること。万一、損傷を与えた場合は、監督員の指示に従って速やかに復旧補償にあたること。
4. 工事完了に際しては、工事区域周辺の後片付けおよび清掃をすること。

第2章 工事特記事項

第1節 工事意義

1. 本工事は文化財保存を前提にしている。従って、請負者は文化財保護法及び関連法令を順守するとともに、各作業の担当者に対しても十分その意義を理解させ、誠実かつより良い文化財環境が得られるよう留意して施工を行うこと。なお、作業中に埋蔵遺物等が発見された場合には直ちに工事を止め、監督員に報告すること。
2. 本工事は国史跡の環境整備という特殊な工事であるので、現場代理人・主任技術者及び工事に従事する作業員の人選にあたっては十分配慮すること。また、当該工事は遺跡への直接的工事であることを充分理解し細心の注意をもって当たるように努めること。
3. 本工事は国史跡地内で行う工事であることから、必要以上に工事範囲を拡大することのないよう努めること。また、工事内容の概要を示した立て看板を設置し、文化財環境整備工事への理解及び普及啓発を行うこと。なお、記載内容及び詳細な設置位置については、現場にて監督員の承認を受けること。
4. 本整備に際しては、史跡整備検討委員会を設けており監督員の承認後も委員会の決定により変更が生じる可能性があるため、この場合には監督員と協議を行った上で、必要に応じて変更するものとする。
5. 設置物の詳細な位置に関しては、適宜、監督員と協議を行い、施工位置を決めることとする。

第2節 重機搬入

1. 重機の搬入及び作業範囲については監督員の承認を得ること。
2. 搬入ルートについては、敷鉄板等により養生すること。

第3節 土工

1. 掘削
 - ・史跡指定地内の掘削に関しては、監督員の立会指導のもとで細心の注意を払い作業を行うこと。地下遺構面の削平等が懸念される場合、あるいは遺物等が確認された場合には作業を中断し、速やかに監督員に報告を行い対応指示に従うこと。
2. 盛土
 - ・盛土材としては、流用土（本工事での発生土を含む）の使用を優先すること。
 - ・盛土範囲については、先だって表土の鋤取りを行うこと。鋤取り厚は10cmとする。
 - ・表土の鋤取り作業については、監督員の立会い指導のもと、細心の注意を払い作業を行うこと。
3. 周辺環境への配慮
 - ・掘削/盛土を問わず、土工にあたっては流出土等の発生予防に努め、周辺環境への影響を最低限に抑えるよう留意すること。

第4節 遺構露出展示工

1. 既存施設の解体
 - ・解体に先だって遺構の露出展示部分にはシートや土のう等による養生を行い、覆い屋撤去工事による影響の低減を図ること。
 - ・解体にあたっては、特に既存覆い屋の北側において、遺構面との抵触に留意すること。施工中、遺構その他に異変が確認された場合には直ちに作業を中止し、監督員の確認指示を仰ぐこと。
 - ・既存のコンクリート基礎撤去に際しては、基礎やその下部の設置資材等の状況を十分に確認すること。必要に応じて監督員の確認指示を仰ぐこと。
 - ・既存の遺構露出展示部の側壁部分については、設置状況や平面状況等を十分に確認すること。必

要に応じて監督員の確認指示を仰ぐこと。

- ・東側に接する北の谷への工事に伴う影響を最小限とするよう配慮すること。
2. 新規施設の敷地造成
 - ・周辺に電気配管等が埋設しているため、施工時には十分に留意すること。
 3. 覆い屋基礎打設
 - ・新規土のうの設置と周辺の埋戻が完了した後に、監督員が指定する 2 箇所において載荷試験を実施すること。また、試験により十分な地耐力を得られなかった場合は、対応を監督員と協議すること。
 - ・基礎打設にあたっては、遺構面との位置関係に十分留意し、き損その他の影響がないよう配慮すること。施工中、遺構その他に異変が確認された場合には直ちに作業を中止し、監督員の確認指示を仰ぐこと。
 - ・急激な乾燥を避けるため表面が硬化するまでは養生を行うこと（特に冬季施工については、凍害防止のために、養生マットなどの特殊養生等を行い、必要に応じて養生期間を延長するなど、十分な凍上対策を行うこと）。また、施工後に降雨が予想される場合は、シート養生を行うこと。
 4. 覆い屋の設置
 - ・鉄骨造りを基本構造とし、屋根はヴォールト形状とする。出入口は南北 2 箇所とし、雪除けを目的としたポーチを設ける。窓は必要最低限とする。
 - ・屋根及び外壁は周辺環境や史跡景観になじむ配色とし、詳細は監督員と協議の上決定すること。
 - ・覆い屋内の床面は原則フラットとし、観覧路と遺構露出展示部の間には、侵入防止を目的とした手すり柵を設けるものとする。
 - ・内装としては空調設備、照明設備を設ける。
 5. 遺構露出展示部の整備
 - ・遺構露出展示部の凹部には山砂等の充填材を充填し、表面を土系のマグネシウム固化剤（ジオベスト）にて固化する。固化に際しては、施工時に試験等を実施し、最適な配合量にて施工を行うものとする。
 - ・試験実施時及び施工時については遺構露出展示部に雨水等が流入しないよう仮設の覆屋を設置する。
 - ・遺構露出展示部の壁面については土のう積にて構成し、モルタル吹きつけ（ラス網併用）にて表面を被覆する。その後、FRP もしくは擬土等により化粧し、塗装を施す。塗装色については、遺構露出展示部の土系舗装材に準じた配色とし、詳細は監督員と協議の上、決定すること。
 - ・埋設している土器等の遺構に直接舗装が接することがないように養生対応を行ってから施工する。

第5節 舗装工

1. 既存園路の撤去
 - ・施工前に撤去範囲について監督員と協議確認すること。
 - ・撤去は原則として表層のみとするが、路盤に損傷、へたれ等が確認された場合には、監督員と協議のうえ、劣化路盤についても部分的に撤去するものとする。
2. 園路舗装

舗装材は、原則として現地採取土の粒度を一定にした上で無機系固化材と均一配合するタイプの製品（SLソイルサンドもしくはその同等品）を使用するものとする。ただし、現地採取土では十分な強度が確保できない場合、強度の出やすい別途採取土を配合する。

 - ・舗装色については既存舗装（アスウッド舗装）と統一性のある配色とし、色粉等により適宜調色するものとする。
 - ・路盤を撤去した場合には同箇所に新たに路盤工を施工すること。

- ・ 冬季施工は、凍害による舗装材の破壊が起きる可能性があるため、気象や水の滞留・流入などに十分配慮するものとし、外気温が 5℃以下になる場合や雨天時は、施工を控えること。
- ・ 排水面を考慮し、園路に排水勾配を設けること。
- ・ 急激な乾燥を避けるため表面が硬化するまでは養生を行うこと。特に冬季施工については、凍害防止のために、養生マットなどの特殊養生等を行い、必要に応じて養生期間を延長するなど、十分な凍上対策を行うこと。また、施工後に降雨が予想される場合は、シート養生を行うこと。

第7節 階段工

1. 新設する階段の留杭の打設時は、近傍に遺構面が存在しているため、監督員の確認を得ながら作業を進める。

第8節 植生工

1. 覆屋の施工によって、掘削等された範囲については、新規覆い屋の設置後に張芝を行うこと。
2. 植栽客土は、土質状況を確認し、監督員と協議の上、必要に応じて客土厚及び土壌改良材の添加量を変更すること。
3. 芝が活着するまでの間は、人が芝生に入らないように人止め柵等を設け養生期間を設けること。

第9節 付属施設工

1. 擬木ロープ柵の打設時は、近傍に遺構面が存在しているため、監督員の確認を得ながら作業を進める。

第10節 撤去工

1. 撤去施設の内容については、施工前に監督員と協議を行うこと。

第11節 その他

1. 設計図書及び仕様書等で判断が付かないものは、監督員と協議の上決定すること。
2. 上記協議決定事項についても「第 1 章第 2 節. 工事意義」に示したように、本整備にあたっては整備委員会を設けており、監督員の承認後も委員会の決定により変更が生じる可能性があるため、この場合には監督員と協議を行った上で、必要に応じて変更するものとする。